

2019 (平成31) 年度

ふじた未来入学試験 (AO入試)  
学習能力適性検査

*Windom*  
小論文

注意： 答えは解答用紙に記入すること。

次の文章を読んで、以下の問に答えなさい。

まず第一に、「超然の術」(art of detachment)を早い時期に身につけていただきたい。それは、若さにつきものの娯楽や快楽から自らを隔離する能力を意味する。人間は生来、怠惰の権化である。他のエデン的な性質は残骸として残っているに過ぎないが、怠惰という性質だけは原始時代そのままの強烈さを保っている。快楽を求める代わりに労苦のほうを選ぶ人もたまにはいるが、大多数の者は人間の弱点を持つアダムと真剣に格闘しなければならない。そして、快楽を軽蔑し労苦多い歳月を過ごすのは容易ではないと悟る。そのような隔離能力は、初めて大都会で暮らす諸君にとっては極めて大切なものである。大都会には魅力的なものがふんだんにあり、それが、隔離能力の修得を阻むからである。その術を身につけるために必要な訓練は、自己規制の習慣を培い、人生の厳しい現実への貴重な手引きとなる。

諸君に向かって、勉学にばかり身を入れ過ぎてはいけないと警告する必要はないと思う。若い医学生で血気盛んな時代が在学中に無味乾燥なものになってしまった、という人にはいまだお目にかかったことがないからである。ところで、私は望ましい最初の要件として「超然の術」を挙げたのだが、私が世間からの隔離状態をあまりに強調し過ぎていると思われる諸君には、「たゆみない労苦に、それに相応しい快楽をいかに混ぜるか」について述べ、先ほどの酷な表現を和らげさせていただきたい。

出典：「平静の心 オスラー博士講演集」William Osler 著、日野原重明／仁木久恵訳

問1 著者は、「超然たる」ためには、何が必要であると言っているか。

問2 下線部「たゆみない労苦に、それに相応しい快楽をいかに混ぜるか」について述べ』とあるが、著者がこの後に述べようとしていることを言い換えて簡潔に(30字以内)説明しなさい。

問3 医学を志す者として、今後出現する様々な誘惑に打ち勝ち、目標を達成するための、あなたの心構え、具体的な方策について述べなさい。(200字以内)。

空白ページ

*Windom*